

「サザンカ」

廣瀬清一 事務局



ふと、童謡『たきび(巽聖歌詞、渡辺茂曲、1941年)』の中の冬の情景が懐かしく思いだされる。

歌詞の二番には、

さざんか さざんか さいたまち
たきびだ たきびだ おちばたき
あたらうか あたらうよ
しもやけ おててが もうかゆい とある。

かつては公園などで落ち葉や枯れ枝を集めてたき火をする風景が多く見られた。

たき火の後には、焼き芋を作ったものだ。湯気が上がり、ホクホクした美味しい焼き芋の味は忘れられない。

朝晩がめっきり冷え込んできた。冬の訪れが近いことを感じる。

山の紅葉や黄色く色づいたイチョウ並木の美しい写真が新聞紙面を彩る。

ケヤキ、ソメイヨシノ、ナンキンハゼ、ハナミズキ、プラタナス、トウカエデの木々から音もなく散り、風に舞い、地面を覆う落葉。

都会では早々に清掃されてしまう落葉だが、その上を歩くとカサカサと音がし、フワフワとする感触が伝わり、さらに独特の匂いがする。「落葉敷散歩」なる洒落た言葉もあるようだ。

日陰ではくすんだ茶色に見えるが、日なたでは、赤、朱、紅緋、橙、黄、鬱金、茶、褐色と様々な色に照り輝く。

いつもの道を歩いていると、この季節の色合いと違った一角がある。

艶やかな濃い色の葉の間に、淡紅色、桃色や紅色の可憐なサザンカの花がたくさん咲いている。

意外にも生垣や公園など、あちこちにサザンカの花を目にする。

花は次々に咲き根元には花びらの綺麗な絨毯が出来ていて、木の姿や花はツバキに似ているがサザンカだとすぐにわかる。

かきわの垣根のまがらと
たきびだ 焚火だ 落葉だ
あたらうか
あたらうよ
北風が吹いている
さざんか 山茶花さいたまち
たきびだ 焚火だ 落葉だ
あたらうか
あたらうよ
昭和やけおててがもうかゆい
こがらし木枯れさむい道
たきびだ 焚火だ 落葉だ
あたらうか
あたらうよ
相談しなかり 歩いてく
聖歌

『たきび』 巽聖歌

サザンカに話を戻すと、サザンカとツバキは似ているが少し違う。

サザンカは花びらが一枚ずつハラハラと散り、一方ツバキは花びらが付いたまま花首からボトリと落ち、風情は全く異なる。

元々のサザンカの花期は10~12月でツバキよりも早く咲いていたが、最近の園芸種ではツバキと同じ時期にも咲いている。

ツバキは万葉時代から歌に詠まれ親しまれたが、サザンカは江戸時代まで不思議と記録がない。

「山茶花・サザンカ」の名は、ツバキの漢名は「山茶」でツバキとの誤認とも、「山茶花」の読みである「サンサカ」が音位転換したともいわれてはっきりしない。(サザンカの漢名は「茶梅」)

サザンカ(*Camellia sasanqua*)は、日本原産で野生種は四国、九州から沖縄にかけて見られ、花卉の数が5~7枚の一重咲きで多くは白色。一重の白いサザンカ(原種)を東京都江東区の亀戸中央公園で見ることができる。



サザンカ(原種) 亀戸中央公園

江戸時代には一重咲きのいろいろな園芸種が生まれた。戦後に、遅咲きや華やかな八重咲きや獅子咲きの華やかな品種が次々と作出された。

サザンカは江戸時代の貝原益軒の「花譜」に漢名の「茶梅」として登場し、これ以降毛利梅園の『梅園草木花譜』などに載るようになる。



毛利梅園『梅園草木花譜』冬之部

サザンカの花は暖かい室内に持ち込むと直ぐに散ってしまう。そのためサザンカの花は生け花に使われることは少ない。

サザンカの花には香があるが、寒い野外ではこの香りに気付く人は少ない。

花粉様の粉っぽい甘さの中に、さわやかですっきりしたフローラルな香りをしている。

香気成分としては、ツバキと共通してフレッシュなウッディ・フローラルな Linalooloxide とフローラルな Linalool を含んでいる。大きな違いは橙花様で埃くさくも感じられる Acetophenone を含んでいる。

花の姿に似て、なんとなくフワーとした優しい和む香りである。

山茶花のここを書斎と定めたり

正岡子規

病の正岡子規が山茶花の花が見える部屋を見つけ詠んだとも言われる。サザンカの花言葉には「困難に打ち克つ」「ひたむきさ」などがある。

混沌とした時代、日差しに照り映えるサザンカを見て気持ちを新たにした。

参考文献

- 1) 箱田直紀 『サザンカの名前とその変遷』 ぐらしの植物苑だより No.327 2013年
- 2) 箱田直紀 『サザンカの魅力』 ぐらしの植物苑だより No.339 2014年
- 3) 箱田直紀 『サザンカの花色と花形』 ぐらしの植物苑だより 375 2017年
- 4) 小又昭彦、蓬田勝之 『ツバキの花の香気成分に関する研究』 園芸学会雑誌 1989年 58巻 2号 429-434
- 5) 中村祥二 『花の香り』 におい・かおり環境学会誌 2007年 38巻 6号 435-443
- 6) 毛利梅園 『梅園草木花譜』冬之部 国立国会図書館デジタル化資料